

平成 21 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（B）  
 研究期間：2006-2008  
 課題番号：18330117  
 研究課題名（和文） オーストラリアと日本の自治体における業務記録管理システムの比較研究  
 研究課題名（英文） Comparative research on record management system of public administrative organizations between Australia and Japan  
 研究代表者  
 藤吉 圭二（FUJIYOSHI Keiji）  
 高野山大学・文学部・准教授  
 研究者番号：

## 研究成果の概要：

本研究では、行政機関の電子記録管理について、先進事例とされるオーストラリア・ヴィクトリア州の VERS: Victorian Electronic Records Strategy が、システムを内部開発せず、システムが準拠すべき仕様（VERS 標準）を策定・公表することで、州政府だけでなく他の公的・民間組織にもシステムが受容され、適切な電子記録管理の普及に効果のあったことがわかった。一方、日本の場合、必ずしも記録が説明責任を果たすための証拠とはなりにくい特性を有することもわかった。これにより、政府機関の記録管理の研究においては、記録というものの位置づけを、国際的な比較のなかで社会的・文化的背景から捉え直すことも重要な作業であるということが明らかとなった。

## 交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	3,900,000	1,170,000	5,070,000
2007 年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2008 年度	1,600,000	480,000	2,080,000
年度			
年度			
総計	7,200,000	2,160,000	9,360,000

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：アーカイブズ アカウンタビリティ 説明責任 電子記録 社会の記憶 VERS

## 1. 研究開始当初の背景

パソコンおよびインターネットの普及により、組織の業務遂行過程で作成される電子記録の適切な管理が重要な課題となってきた。多様なソフトウェアで作成される電子記録には、ソフトウェアの更新や変更によって、読めなくなるという状態が容易に生じうるからである。また、政府のアカウンタビリティや企業のコンプライアンスなど、みずからの活動の妥当性を証明するために記録の管理が重視されるようになってきているからである。このようなことを背景として、

電子記録管理のためのシステムが、単に組織内部の業務遂行の支援に有効性を発揮するだけでなく、電子文書が証拠「書類」としての能力を持つための真正性を確保し、また、長期間にわたって保管された後にも容易に検索・利用できるような状態の維持に有効性・信頼性を発揮するようなものとして必要とされるにいたった。このような文書管理スタイルの変化は、結果として現場スタッフの業務の進め方や、人びとの記録というものに対する意識に変容を迫るものであり、こうした点の解明をめざして本研究は着手された。

## 2. 研究の目的

行政機関における業務記録の管理・保存は、近年おもに、(1)適切に保存された業務記録を参照することにより機関における業務遂行を円滑化する、(2)適切に保存された業務記録を公開することにより住民に対する挙証説明責任(accountability)を確保する、という観点から重視されるようになってきており、加えて、インターネットの普及に象徴される電子ネットワーク化を背景とした業務遂行における電子文書の比重の高まりとも相まって、電子記録の適切な管理、保存が重要な課題となってきたが、現状では適切な解決策に対する合意は得られていない。これを踏まえ本研究は、行政機関において電子的に作成・利用される業務記録を適切に管理・公開するという課題に関し、世界的に見ても先進的な役割を果たしているオーストラリア・ヴィクトリア州公文書館 (PROV—Public Record Office Victoria) の推進する電子文書管理・公開のための取り組み、VERS—Victorian Electronic Records Strategy の意義と汎用性を調査・研究し、そのわが国における適用可能性を研究することを目的とする。明らかにしようとするのは次の4点である。

### (1) VERS システムの概要把握

行政機関に限らず組織体の業務記録で大きな問題となるのは、どの記録を残しどの記録を廃棄すべきかという評価・選別の問題である。基本的にこの問題には、原課から記録の移管を受ける文書管理部署があたり、一定の基準に基づいて事後的に評価・選別を実施することが通例となっている。それに対して VERS のばあい、原課における業務記録作成の時点で当該記録の保存年限などが分類されるしくみになっている。PC 上で業務文書を作成するアプリケーションソフトにはあらかじめ「作成した文書を組織の公的記録として保存する」という保存方法を指定するツールが組み込まれ、現場スタッフが画面の指示に従って必要事項を埋めていくことによって、ほぼ自動的に当該業務文書の業務プロセスにおける重要度などが判定され、それにより保存場所や保存年限などが設定されるシステムになっている。すなわち記録作成時点ですでに評価・選別のしくみが組み込まれたシステムになっている。この構築にあたっては PROV の強力なイニシアティブだけでなく、業務現場スタッフの積極的な協力があつたとのことであり、こうした VERS システムに関し、記録・文書管理といったアーカイブ学的な側面、情報の管理・セキュリティの確保といった情報技術的な側面だけでなく、業務現場にとっての使い勝手のよさといった組織運営的な側面についても、ヴィクトリア州政府現場スタッフへの聴き取り調査な

どを進め、機関の業務遂行と有機的に連携し、現場にとって使い勝手のよいシステムとされる VERS の概要を把握する。

(2) 州政府業務における VERS の位置づけ  
機関にとって重要なのは直面する業務の遂行であり、それによって生じる記録・文書類は、基本的にその副産物にすぎないといっても過言ではない。その意味で、記録を保存しさらにそれを住民に公開するという作業も組織にとっては副次的なものといえる。VERS は電子的な業務文書を作成時点からコントロールしようという取り組みであり、現場スタッフの理解なしには実行のおぼつかないものである。VERS の構築にあたってはヴィクトリア州政府、特にその管理部門において業務記録に関するこのような理解が不可欠であり、そうした理解を醸成した背景を当時の記録や関係者への聴き取り調査などをもとにして確認し、州政府が VERS をどのように位置づけているかに関して把握する。

### (3) 公的記録に対する住民意識の調査

以上のような取り組みである VERS には公文書館や現場スタッフの労力だけでなく、州政府より巨額な予算が、具体的には 1996 年のリサーチ・プロジェクトから 2005 財政年度まで、10 年間で 13 億 7500 万豪ドルが投入されている。行政記録の電子的な保存・管理に対してこれだけの予算を計上するという事は、住民の理解・合意なくして可能なことではない。裏を返せばこれは、この地において行政機関の公的記録に関する人々の理解がかなりの程度深まっているとも推測される。この点を把握するため、公文書館で VERS の策定にあつたスタッフだけでなく、その推進に関わった州議会の記録や関係者への聴き取り調査を進め、行政府外部の人々が公的機関の公的記録に対してどのような意識を持っているかについて把握する。

### (4) これからの公文書のあり方に関する基礎的考察

上記 (1) ~ (3) をもとに、電子ネットワーク時代に求められる公文書管理・公開のあり方、つまり公的記録を媒介とした行政と住民との関係性を明らかにし、それをふまえて日本における公的記録のあり方、および、そうした記録に対する行政の現場や住民の意識と比較検討を進め、社会における公的記録の位置づけに関し、オーストラリアと日本との相違を明らかにすることを通じて、日本における記録管理のあるべき姿に関する基礎的考察を進める。

## 3. 研究の方法

### (1) ワークショップ受講を通じた VERS の概要把握

研究期間開始の前年に実施された現地調査において、担当者より VERS 導入のための

ワークショップがPROVによって6コース用意されていることが示唆された。これらはVERSに対する利用習熟度によってレベル分けされているというよりも、むしろVERS導入によって、どのような変化・改善が組織運営において期待できるのかという点について、行政当局者、業務現場の担当者、機関内の情報技術担当者、あるいは行政によってサービスを受ける側に立つ住民など、それぞれの観点から解説を加えたものであるとのことであった。そこで、まずこのワークショップを研究組織メンバーで集中的に受け、それを通じてVERSの構築に関する認識をより具体化することから着手する。このワークショップの受講により、VERSが行政組織の運営をどのように捉え、それをVERSの導入によってどのように改善していこうとしているかについて、おおよその見取り図を描くことができるかと期待される。

#### (2) ウェブ公開されているVERS文献の調査研究

PROVの運営するVERSの公式ウェブサイト【<http://www.prov.vic.gov.au/vers/vers/>】にはVERSに関する報告書、論文などが公開されている。これらを研究代表者、研究分担者で手分けして翻訳・紹介するという研究会を重ねることにより、VERSへの理解を深め、ワークショップ受講の効果を高める。またこの過程でVERSがどのような組織運営を前提としたシステムであるか、またそれは日本の組織運営にも共通点を持つものであるか、といった点についても整理し、後日の比較研究のための検討材料とする。

#### (3) オーストラリアの行政システムに関する調査研究

上記(2)の作業と並行して、オーストラリアおよびヴィクトリア州における行政システムに関する調査を進める。特に行政機関である州政府の意思決定システム、州政府と州議会との関係を把握し、ヴィクトリア州の政治システムにおけるVERSの位置づけを明らかにする。

またみずからの研究遂行の過程で日豪双方のアーカイブズおよびそれに準じる記録管理機関を利用した経験を持つ海外共同研究者を研究期間の早い段階で日本に招き、双方の記録管理および公開に関するシステムの比較に関する研究会を実施する。

#### (4) 日本の行政システムに関する予備的調査

本研究では、最終的にオーストラリアと日本の自治体における業務記録管理システムについての比較研究を目的とする。このため日本の自治体における業務遂行システムおよびそれに付随する業務記録管理システムに関する研究も欠かすことができない。この点については全史料協（全国歴史資料保存利

用機関連絡協議会）などがいくつかの報告書を出しているため、それらを参照しつつ一定の知見を研究組織全体において共有する。特にVERS導入の前後でオーストラリアの業務遂行のシステムにどのような変化が見られたかを整理したうえで、現在まだ紙ベースの業務遂行が大きな比重を占めるわが国の行政機関において電子的な記録作成が根づくにはどのような条件整備が必要であるかについて研究を進め、意見交換をし、この点に関し一定の共通認識を研究組織内で構築することをめざす。

#### (5) VERS 担当者を通じたヴィクトリア州政府・議会関係者とのコンタクト

上記研究調査の全体を通じて、必要に応じ疑問点などを電子メールによってPROV担当者に照会していく。これら担当者を通じて、実際にVERSを導入したヴィクトリア州政府内部の行政機関担当者とコンタクトをとり、導入にあたって課題となったこと、導入が業務遂行に及ぼしたメリット・デメリットなどについて、オーストラリア訪問時にインタビューできるよう準備を進める。さらに、巨大な予算を計上してVERSの推進を支持した州政府関係者にもインタビューをとり、それをもとにして行政府と州議会、州の住民が記録を媒介としてどのような関係性を維持しているかに関して明らかにすることをめざす。

#### 4. 研究成果

電子記録管理システムとしてのVERS標準の有効性については、これが唯一のではないとしても有効なもののひとつであることがわかった。その一方で、電子記録に限らずアーカイブズには、組織の説明責任を果たすというだけでなく、多様な観点からのアプローチが必要であるということが明らかとなった。すなわち、記録に基づく業務遂行および記録管理の標準化によって、結果として現場スタッフの仕事のスタイルをコントロールするというマイクロレベルでの効果が記録管理にはあることがわかった。またマクロレベルでは、蓄積された記録の総体が当該の共同体や社会にとって集合的アイデンティティ確認の拠り所となり、それゆえに記録と記憶をめぐるポリティクスも生じうるということがわかった。特に後者は外部との交渉の歴史とりわけ戦争のような出来事に対する歴史認識ともからんで極めて現代的な、重要な観点であることが、オーストラリアや他のいくつかの諸国におけるアーカイブズを通して明らかとなった。また、当初は行政機関の電子記録管理について、先進事例とされるオーストラリア・ヴィクトリア州のVERS: Victorian Electronic Records Strategyの有効性の検証と、その日本への導入可能性の検

討をめぐっていたが、研究の進展につれ「意思決定の責任の所在を証すものとしての記録」という位置づけが必ずしも日本の場合には妥当しないということが明らかになってきた。

このような成果を踏まえ、研究期間最終年度には、記録管理のあり方を社会的、文化的な背景までさかのぼって検討することが必要との視点から、前年度までの研究成果をまとめる一方、海外でのアーカイブズ理解について確認すべく、国際学会で海外研究者の報告も交えてセッションを持ち、アーカイブズに関する社会学的研究の意義と方向性を確認することをめざした。2008年6月に開催の第38回国際社会学機構世界会議に研究組織から数名が参加し、ナレッジ・マネジメントと記録管理の関係、日本の行政機関の意思決定システムにおける記録管理の特質、近代社会のもつ再帰的性格とアーカイブズの役割というテーマで報告を行なうと共に、アメリカ、ノルウェーの研究者との研究交流を進めた。記録管理に関する国際標準（ISO 15489-1:2001）の制定に見られるように、公的機関だけでなく民間にも適切な記録管理が求められるようになってきているが、文化的背景から記録管理を捉え直すことの重要性も確認された。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計22件）

1. 藤吉圭二「政府のアカウントビリティとアーカイブズ-PROVの成立と発展を事例として-」『アーカイブズ情報の資源化とネットワークの研究』国文学研究資料館共同研究報告書, 2009, 査読無（掲載予定）
2. 藤吉圭二「記録管理を支えるもの-草創期のオーストラリア・ヴィクトリア州を事例として-」『国文学研究資料館紀要アーカイブズ研究篇』5, 23-34, 2009, 査読無
3. 藤吉圭二「【世界の窓】第38回国際社会学機構世界会議参加記 レギュラーセッション‘Archives, Accountability, and Democracy in the Digital Age’を終えて」『記録と史料』19, 22-26, 2009, 査読有
4. Keiji FUJIYOSHI, ‘Cultural Heritage and Digital Technologies: The Case of Koyasan University’, “Exoteric Buddhist Studies: Identity in Diversity”, Koyasan University, 361-365, 2008, 査読有
5. 藤吉圭二「報告：国際社会学機構第38回世界会議」『アーカイブズ学研究』9, 84-89, 2008, 査読有
6. 森本祥子「日本における養成課程と資格制度の提案」『アーカイブズ学研究』9, 日本

アーカイブズ学会, 35-54, 2008, 査読有  
7. Kazuhito Isomura, “The gap between knowledge management and records management”, paper presented at the 38th World Congress of the International Institute of Sociology, Budapest, Hungary, 26-30, June, 2008, 査読無

8. Kaori MAEKAWA, Masahito ANDO, ‘Archiving Records of Atomic Bomb Victims’“Proceedings of the Fourth Sokendai Workshop on War and Peace "Human Security, National and International Security"”168-183, 2008, 査読無

9. 坂口貴弘「電子記録管理におけるメタデータの特質」『レコード・マネジメント』56, 21-38, 2008, 査読無

10. 坂口貴弘「アーカイブズ情報のためのメタデータ標準をめぐる動向」『アーカイブズ・ニューズレター』5, 10-11, 2009, 査読無

11. 加藤陽子・安倍尚紀「組織的に体系化されたオーラルヒストリー」『日本オーラル・ヒストリー研究』4, 65-84, 2008, 査読有

12. 坂口貴弘「段階的整理におけるコストパフォーマンス: アメリカの手引書類の分析から」『アーカイブズ学研究』8, 60-79, 2008, 査読有

13. 坂口貴弘「アーカイブズ情報の共有化はどうすれば進展するのか: 国際調査の結果から」『国文学研究資料館紀要アーカイブズ研究篇』4, 21-38, 2008, 査読無

14. 水垣源太郎「官僚制論の可能性」『ソシオロジ』160号, 114-116, 2007, 査読有

15. 水垣源太郎「オーストラリア・ヴィクトリア州のVERSプロジェクト-電子ベースの包括的行政記録管理システム-」『自治体チャンネル+』99, 14-17, 2007, 査読無

16. 五島敏芳・安倍尚紀「基盤機関アーカイブズ共有化の現状と今後の課題」『共同利用機関の歴史とアーカイブズ2006』5-16, 2007, 総合研究大学院大学, 査読無

17. Gotoh, H., Abe, N., Takaiwa, Y., Namba, C., Matsuoka, K., Kimura, K., Hanaoka, S., Obayashi, H., Fujita, J. ‘A trial to establish database by the use of EAD’, “Annual Report of National Institute for Fusion Science” April 2006 - March 2007, 408, 2007, 査読有

18. Fujita, J., Terashima, Obayashi, H., Matsuoka, K., Namba, C., Kimura, K., Kitsunezaki, A., Kato, N., Abe, N., ‘Complementary Study of nuclear Fusion Archiving by means of Oral History’ “Annual Report of National Institute for Fusion Science” April 2006 - March 2007, 410, 2007, 査読有

19. 森本祥子「EADを用いた資料記述システムの開発」『アーカイブズ学研究』4, 92-102,

2007, 査読有

20. 高田橋範充・磯村和人「持株会社と会計情報」『証券アナリストジャーナル』第44巻第10号, 35-46, 2006, 日本証券アナリスト協会, 査読有

21. 磯村和人「フィクションを活用するケース教材開発」『CGSA フォーラム』4, 91-106, 2006, 中央大学, 査読無

22. Abe, Naoki, "Study on Summarized Captioning via Computer Assistance", *Interdisciplinary Information Science* Vol.13, 1-10, 2006, 査読有

〔学会発表〕(計10件)

1. 藤吉圭二「戦後日本の「市民社会」論—「よい社会」の要件をめぐって—」社会学史学会関西例会, 2008.4.5, 神戸大学

2. 安倍尚紀「アーカイブズと社会の再帰性—ギデンズ理論によるアプローチ—」社会学史学会関西例会, 2008.4.5, 神戸大学

3. 水垣源太郎「稟議制と文書主義—日本の行政組織における意思決定と情報公開—」関西社会学会大会, 2008.5.24, 松山大学

4. Kazuhito, ISOMURA, 'The gap between knowledge management and records management'the 38th World Congress of the International Institute of Sociology, 2008.6.28, Central European University, Budapest, Hungary

5. Gentaro, MIZUGAKI, 'Record Management and Organizational Culture in Japanese Central and Local Governments'the 38th World Congress of the International Institute of Sociology, 2008.6.28, Central European University, Budapest, Hungary

6. Naoki, ABE, 'Archives and Reflexivity in the Modern Society'the 38th World Congress of the International Institute of Sociology, 2008.6.28, Central European University, Budapest, Hungary

7. Sachiko, MORIMOTO, 'Privacy and Archives: Difference between Australia and Japan'Discovering Histories of Foreign Communities in Japan: Research, Archives and Special Collections, 2008.12.2, National Library of Australia, Canberra, Australia

8. 藤吉圭二「ヴィクトリア州公文書館における記録管理について」全国歴史利用保存利用機関連絡協議会近畿部会, 2008.2.22, 京大会館

9. 水垣源太郎「日本の自治体における意思決定と記録管理について」全国歴史利用保存利用機関連絡協議会近畿部会, 2008.2.22, 京大会館

10. 藤吉圭二「ヴィクトリア州立公文書館のVERSについて」日本アーカイブズ学会/科学研究費「歴史情報資源活用システムと国際的アーカイブズ・ネットワークの基礎構築

にむけての研究」共催研究集会, 2006.12.9, 学習院大学

〔図書〕(計7件)

1. 田村恵子『日本の女性移民史の発掘—写真花嫁と戦争花嫁のたどった道—』明石書店, 2009 (予定)

2. 藤吉圭二, 『現代文化の社会学 入門』ミネルヴァ書房, 27-52, 2008

3. Keiko, TAMURA, "Armed Forces in East and South East Asia: Studies in Anthropology and History", 98-119

4. Keiko, TAMURA, "Armed Forces in East and South East Asia: Studies in Anthropology and History", The Institute for Research in Humanities, Kyoto University, 2008, 98-119.

5. Keiko, TAMURA, "Unexpected encounters: Neglected histories behind the Australia-Japan relationship", 29-49, Monash University Press, 2007,

6. 水垣源太郎『日本官僚制の連続と変変化ライフコース編』ナカニシヤ出版, 215-235, 2007,

7. 水垣源太郎『日本官僚制の連続と変変化ライフヒストリー編』ナカニシヤ出版, xvii-xxv, 2007

〔産業財産権〕

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

〔その他〕

ウェブサイト

<http://homepage3.nifty.com/fjosh/VERS/>

<http://homepage3.nifty.com/fjosh/Budapest2007.htm>

※次ページにつづく

6. 研究組織

(1)研究代表者

藤吉 圭二 (FUJIYOSHI KEIJI)  
高野山大学・文学部・准教授  
研究者番号：70309532

(2)研究分担者

(3)連携研究者

森本祥子 (MORIMOTO SACHIKO)  
国立国語研究所・情報資料部門・研究員  
研究者番号：80342939

前川佳遠理 (MAEKAWA KAORI)  
国文学研究資料館・アーカイブズ研究系・  
助教  
研究者番号：30413917

磯村和人 (ISOMURA KAZUHITO)  
中央大学大学院・国際会計研究科・教授  
研究者番号：60241733

水垣源太郎 (MIZUGAKI GENTARO)  
奈良女子大学・文学部・准教授  
研究者番号：10294274

(4)研究協力者

安倍尚紀 (ABE NAOKI)  
東京福祉大学・教育学部・専任講師  
研究者番号：90401710

坂口貴弘 (SAKAGUCHI TAKAHIRO)  
国文学研究資料館・アーカイブズ研究系・  
機関研究員  
研究者番号：80462175

(5)海外研究協力者

田村恵子 (TAMURA KEIKO)  
オーストラリア国立大学・アジア太平洋研  
究所・客員研究員